

公表

## 事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名			
○保護者評価実施期間	2025年 1月20日		～ 2025年 2月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数) 5人
○従業者評価実施期間	2025年 1月20日		～ 2025年 2月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8人	(回答者数) 7人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月25日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・運動遊びを通して心身の成長の一助となっている。	・子どもたちが楽しみながらスモールステップで自然に運動能力を身につけることで、達成感や意欲を育めるよう、「運動保育士」等の資格を持った職員による運動指導が受けられるようにしている。	・必要に応じて支援プログラムのフィードバックや新しい取り組みを、職員間で共有しながら立案している。
2	・必要な研修を受講できる環境にある。	・全員が1回/毎月、フランチャイズ本部による療育・運動や感染症等のZOOM研修を受けている。	・対面での外部研修を増やし、参加できる職員みんなが受けられるようにし、専門性を高めるようにしつつ、関係機関とのつながりを強化していく。
3	児童発達支援と、放課後等デイサービスの両方を行っているため、小さい子の世話をしてくれたり、大きい子の姿を見て真似ようとしていたり、お互い助け合いながら良い関係や関わりができる。	お互い楽しんで過ごせるよう個々に合わせた取り組みができるよう、個別的な配慮や支援に取り組んでいる。	日々の活動（運動あそび）や遊びの中で楽しみながら学べるよう、工夫しながら支援をしている。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	こども園や保育所、幼稚園等、地域のこどもと交流する機会がない。	現在は遠方の公園や商業施設などの外出時の関わりのみとなっている。こども園や保育園、幼稚園に訪問することでのイベントは、当日の利用人数や送迎車、職員体制などを踏まえた企画をすることが必要となるため難しいと考えていた。地域交流についても同じようなことが予測される。	感染症対策には引き続き注意をしながら、事業所内もしくは施設を借りることでイベントを企画し、地域のこども園や保育園、幼稚園のこども達と一緒に活動することを企画していく。
2	非常時等の対応について、マニュアルや訓練の様子を周知できていない。	マニュアルの説明や掲示ができていない。訓練については、当日の利用者のみの参加となっているため周知されていない。	マニュアルの説明をして掲示をするなどの改善や、避難訓練の日数を増やし共有することで、全ての利用者へ避難先までの動きを認識してもらい安全管理を徹底していく。
3			